

令和3年度 決算報告資料

公立大学法人横浜市立大学

表紙：病院ボランティア折り紙グループによる
センター病院での「折り紙プロジェクト」
で作成したフォトモザイクアートです。
病院の入院患者さんやそのご家族、本学の
学生や教職員から集めた折り紙作品約2,000
個を使用しました。



1-1 決算総括(法人全体)

- 附属2病院ともにコロナ対応に伴う診療抑制により、入院患者数は減少したものの、外来患者数は増加。コロナ関連の特定入院料や外来化学療法が増等が入院・外来単価の増につながり、医業収益は増加。医薬品費や診療材料費の増に伴い医業費用も増加したものの、前年度に引き続き県等からのコロナ関連補助金の受入れも加わり、全セグメントで黒字決算
- 当期総利益は28.8億円となり、目的積立金はポストコロナの病院経営等を見据え計画的に活用

- ・経常費用 829.8億円(対前年度+30.0億円)
高額医療品使用量の増や手術件数の増による診療経費の増 等
- ・経常収益 857.6億円(対前年度+29.2億円)
入院・外来単価増による入院・外来収益の増 等
- ・経常利益 27.9億円(対前年度▲0.9億円)
- ・当期純利益 27.9億円(対前年度+0.2億円)
過年度減価償却処理誤謬修正 等(臨時損失0.8億円、臨時利益0.9億円)
- ・目的積立金取崩 0.9億円
- ・当期総利益 28.8億円(対前年度▲2.7億円)

1-2 決算総括(セグメント別)

<大学> 当期総利益:3.3億円(前年度比:▲1.5億円)

○人件費の減や寄付金・特許技術移転料等の収入などに加え、社会経済情勢を踏まえた効率的な経費執行に取り組み、法人化以降継続して黒字決算

<附属病院> 当期総利益:14.7億円(前年度比▲5.6億円)

○コロナ関連の特定入院料の増加や外来化学療法実施件数の増加等により入院・外来単価が上昇し、医業収益は前年度に比べて増加。県等からのコロナ関連補助金の受入れは前年度から減少したものの、平均在院日数の短縮や紹介・逆紹介の促進等の経営改善の取組を継続して進めたことにより、5年連続での黒字決算

<センター病院> 当期総利益:10.8億円(前年度比+4.3億円)

○コロナ関連の特定入院料の増加や手術件数の増加、外来化学療法実施件数の増加等により入院・外来単価が上昇し、医業収益は前年度に比べて増加。県等からのコロナ関連補助金の受入れに加え、総合入院体制加算1等の加算取得の維持や紹介・逆紹介の促進等の経営改善の取組を継続して進めたことにより、前年度に続き黒字決算

2-1 財務諸表(法人全体:費用)

<費用の部(対前年度比較)>

(単位:百万円)

		令和3年度	令和2年度	対前年度		
経常費用	業務費	教育経費	1,607	1,458	149	LMS構築費、光熱水費等により対前年度比1.5億円の増
		研究経費	2,442	2,686	▲ 244	
		診療経費	38,975	36,299	2,676	高額医薬品の使用量増加や診療材料の使用量増加等により対前年度比26.8億円の増
		教育研究支援経費	427	566	▲ 139	
		受託研究費等	2,261	2,185	76	
		人件費	35,783	35,295	488	定期昇給やコロナ関連手当の増等により対前年度比4.9億円の増
		業務費合計	81,499	78,494	3,005	
		一般管理費	1,476	1,476	0	対前年度比30億円の増
経常費用合計		82,975	79,971	3,004		
臨時損失		80	135	▲ 55	R2血液照射装置除却の減0.9億円等	
当期総利益		2,878	3,151	▲ 272		

2-1 財務諸表(法人全体:収益)

<収益の部(対前年度比較)>

(単位:百万円)

		令和3年度	令和2年度	対前年度	
経常収益	運営交付金収益	11,957	11,826	131	
	授業料収益等	3,154	3,151	3	
	附属病院収益	59,406	56,490	2,916	入院単価・外来単価の増に伴う収益の増により対前年度比29.2億円の増
	受託研究等収益	2,703	2,623	80	
	補助金等収益	4,903	5,781	▲ 878	大型AMED補助金、市LIP関連補助金の減等により、対前年度比8.8億円の減
	寄附金収益	677	579	98	
	資産見返負債戻入	1,864	1,360	504	
	雑益等	1,088	1,025	63	
経常収益合計		85,755	82,840	2,914	対前年度比29.1億円の増
臨時利益		86	29	56	
目的積立金取崩額		91	389	▲ 299	損益外減価償却処理の誤謬修正等

2-2 財務諸表(セグメント別)

<損益計算書(セグメント別)>

(単位:百万円)

	セグメント情報				3年度 決算	2年度 決算	対前年 増減
	大学	附属病院	センター病院	法人共通			
経常費用①	14,502	32,914	35,583	▲ 24	82,975	79,971	3,004
経常収益②	14,722	34,415	36,642	▲ 24	85,755	82,840	2,915
経常損益③ (③=②-①)	219	1,500	1,059	-	2,779	2,868	▲ 88
臨時損失④	20	59	0	-	80	135	▲ 54
臨時利益⑤	65	20	0	-	86	29	57
当期純利益⑥ (⑥=③-④+⑤)	264	1,462	1,059	-	2,786	2,762	23
目的積立金取崩⑦	70	4	17	-	91	389	▲ 297
当期総利益⑧ (⑧=⑥+⑦)	334	1,466	1,076	-	2,878	3,151	▲ 273

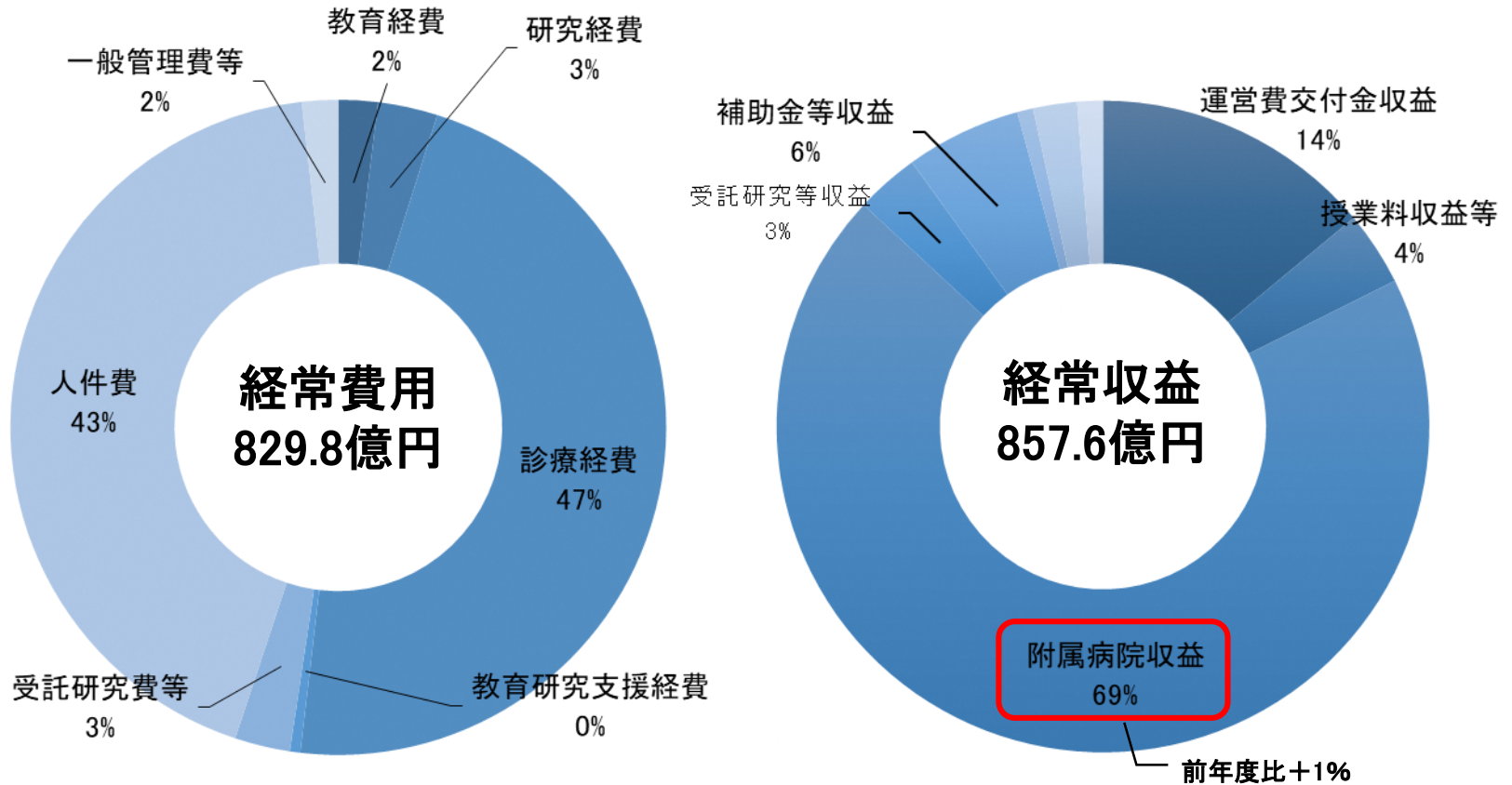
※法人共通(▲24)・・・研究経費等におけるセグメント間での学内取引の相殺

※臨時損失(▲54)・・・センター病院におけるR2年度分血液照射装置除却による減(▲91) 等

※臨時利益(57)・・・損益外減価償却処理の修正(令和元~2年度分)(57) 等

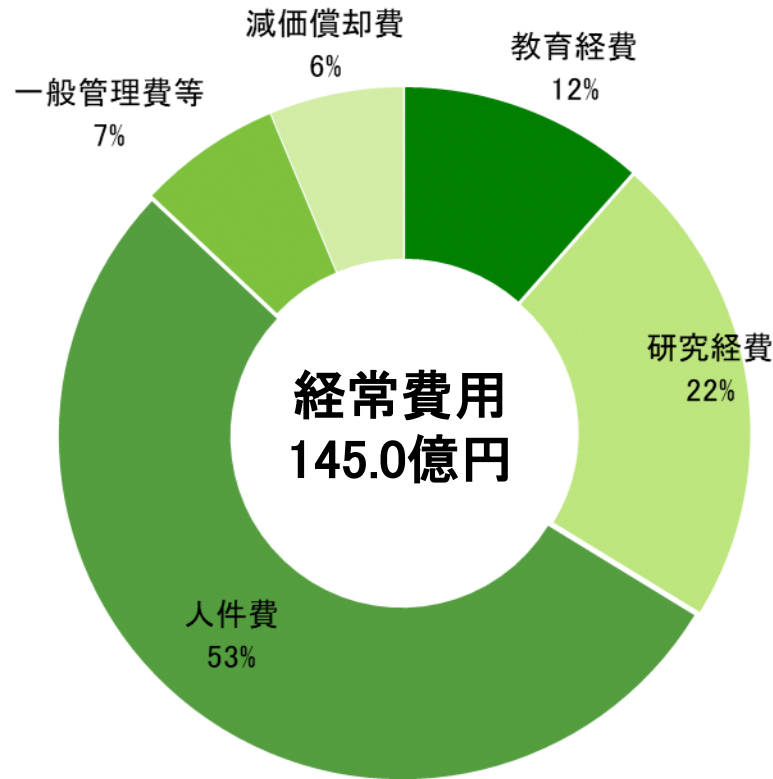
※目的積立金取崩(▲297)・・・施設整備・ICT整備の費用計上の減(▲176) 等

2-3 財務諸表(經常損益・法人全体)



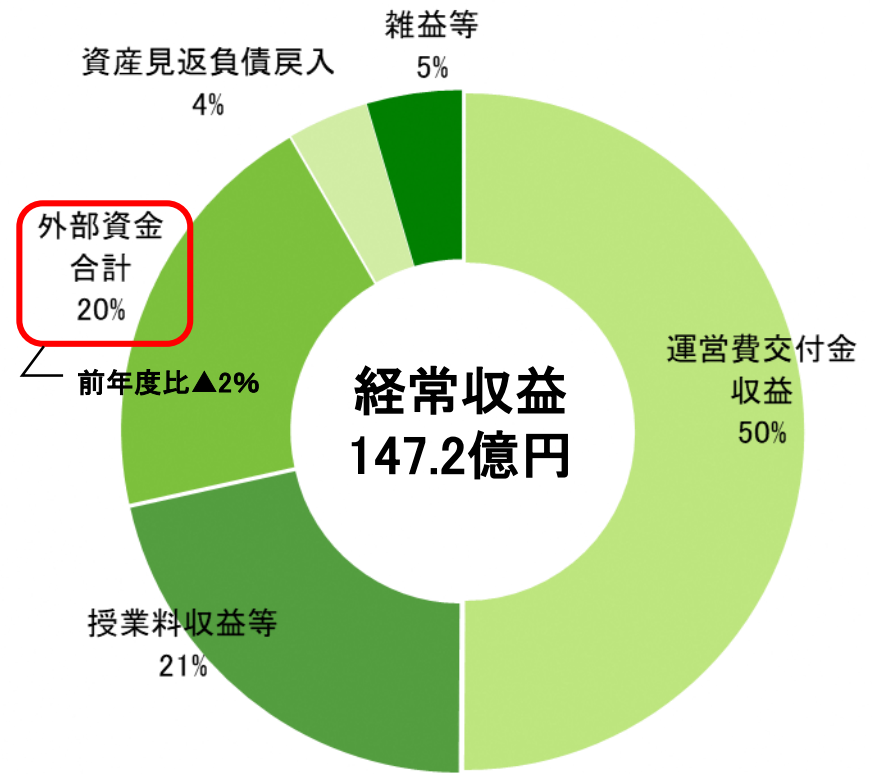
2-4 財務諸表

(經常損益: 主な増減要因)【大学】



■ 主な増減要因(単位:百万円)

- 【教育 +70】… LMS構築(+90)、光熱水費(+44) 等
- 【研究 ▲267】… 大型AMED補助金(▲475)、受託研究獲得増(+43) 等
- 【人件費 ▲44】… 教員(▲45)、退職給付繰入(+8) 等
- 【一般管理 ▲6】… MMSC賃室料(▲25)、警備等設備管理業務委託費(▲12) 等

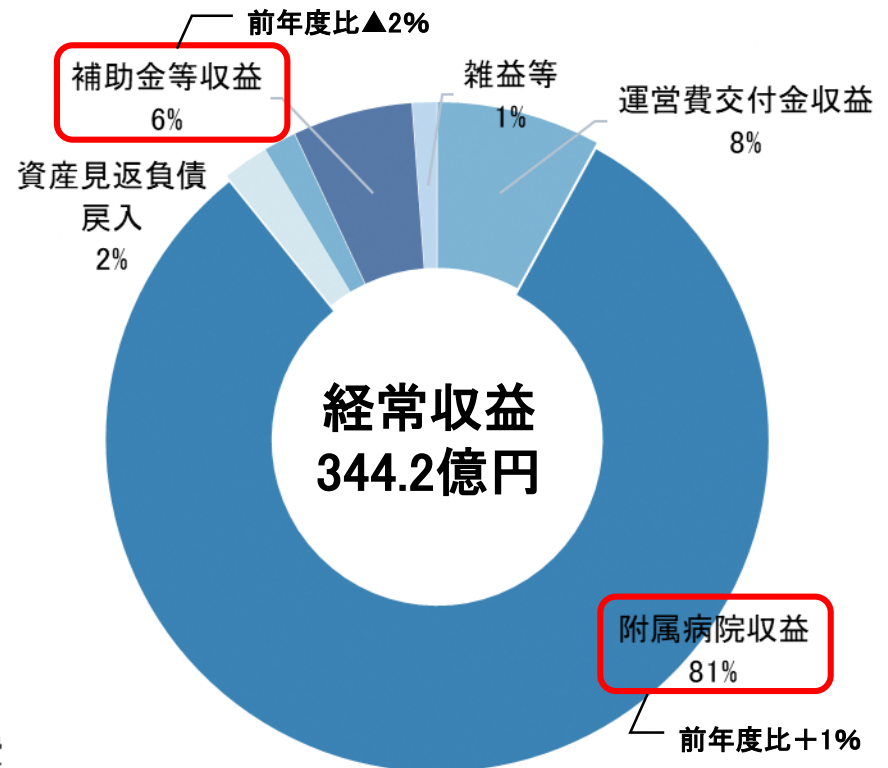
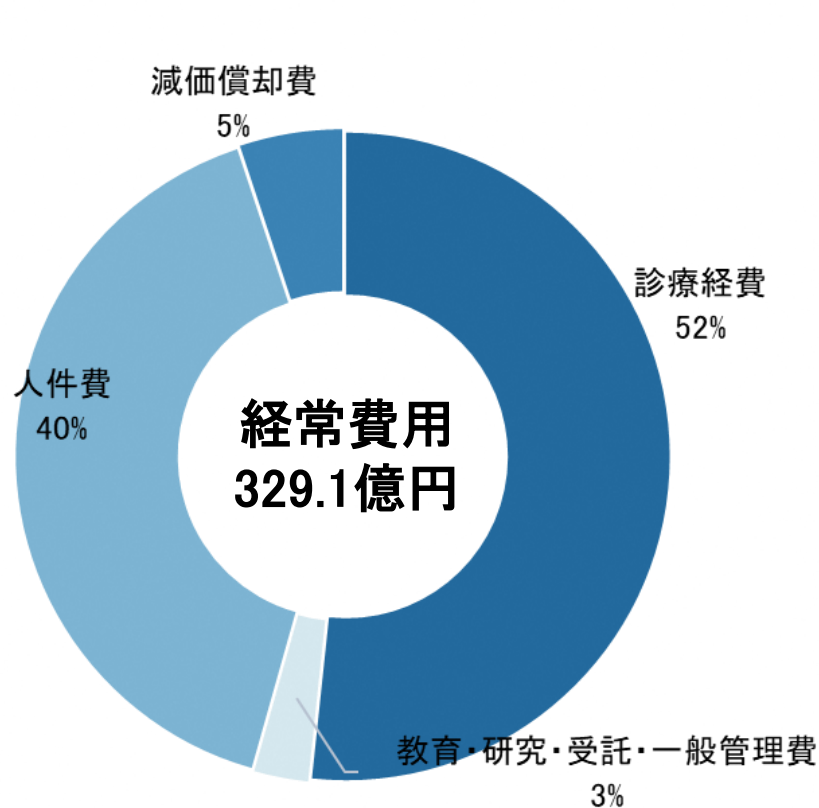


■ 主な増減要因(単位:百万円)

- 【授業料収益等 +3】… 授業料・入学金収益(+9) 等
- 【外部資金 ▲366】… 大型AMED補助金(▲475)、市LIP関連(▲39) デジタル活用教育高度化事業(+90) 等
- 【雑益等 ▲49】… 寄附金(+8)、財産貸付料収入(+11) 等

2-5 財務諸表

(経常損益: 主な増減要因)【附属】



■ 主な増減要因(単位:百万円)

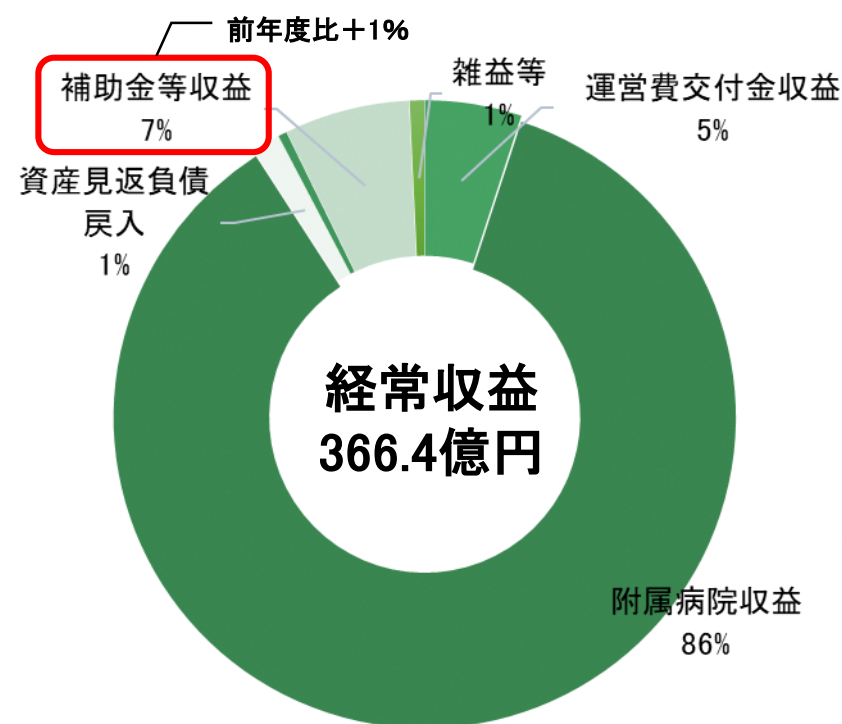
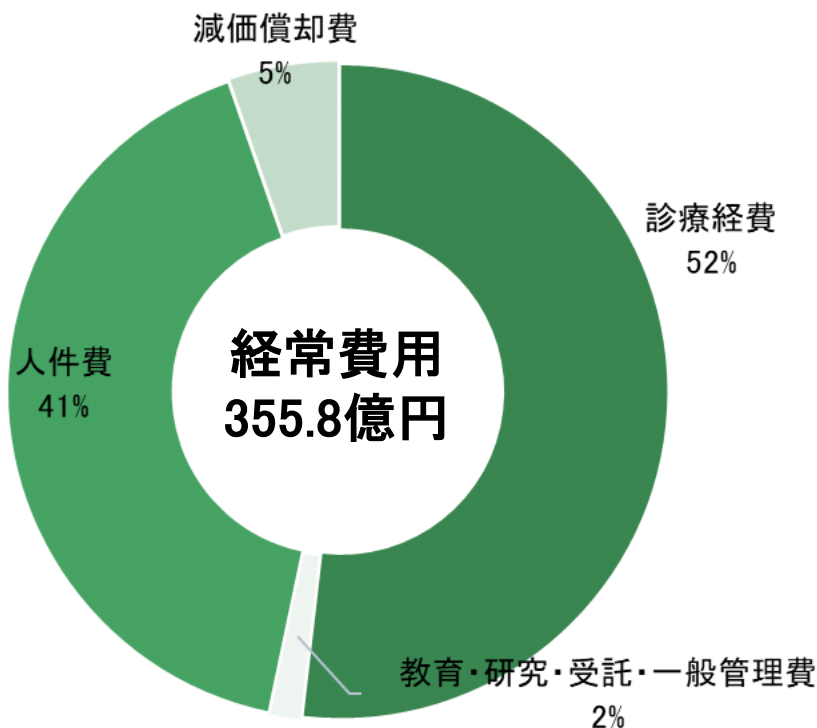
- 【診療 +1,176】…医薬品(+810)、診療材料費(+152)等
- 【人件費 +381】…定期昇給(+126)、はじめ病院手当(+54)退職給付繰入(+15)等
- 【減価償却費 +238】…R2年度コロナ補助金による資産取得(+283)

■ 主な増減要因(単位:百万円)

- 【附属病院収益 +1,468】
- 入院(+557)…入院単価の増(+5.8%)、入院患者数の減(▲2.4%)
- 外来(+919)…外来単価の増(+6.0%)、外来患者数の増(+3.8%)
- 【補助金 ▲674】…コロナ関連補助金(▲665)

2-6 財務諸表

(経常損益: 主な増減要因)【センター】



■ 主な増減要因(単位:百万円)

- 【診療 +914】…医薬品(+354)、診療材料(+287)
- 【人件費 +149】…定期昇給(+157)、超過勤務(+100)、宿日直手当(+79) 等
- 【減価償却費 +348】…リニアック(+73)、ダ・ヴィンチ(+88) コロナ補助金による医療機器(+167) 等

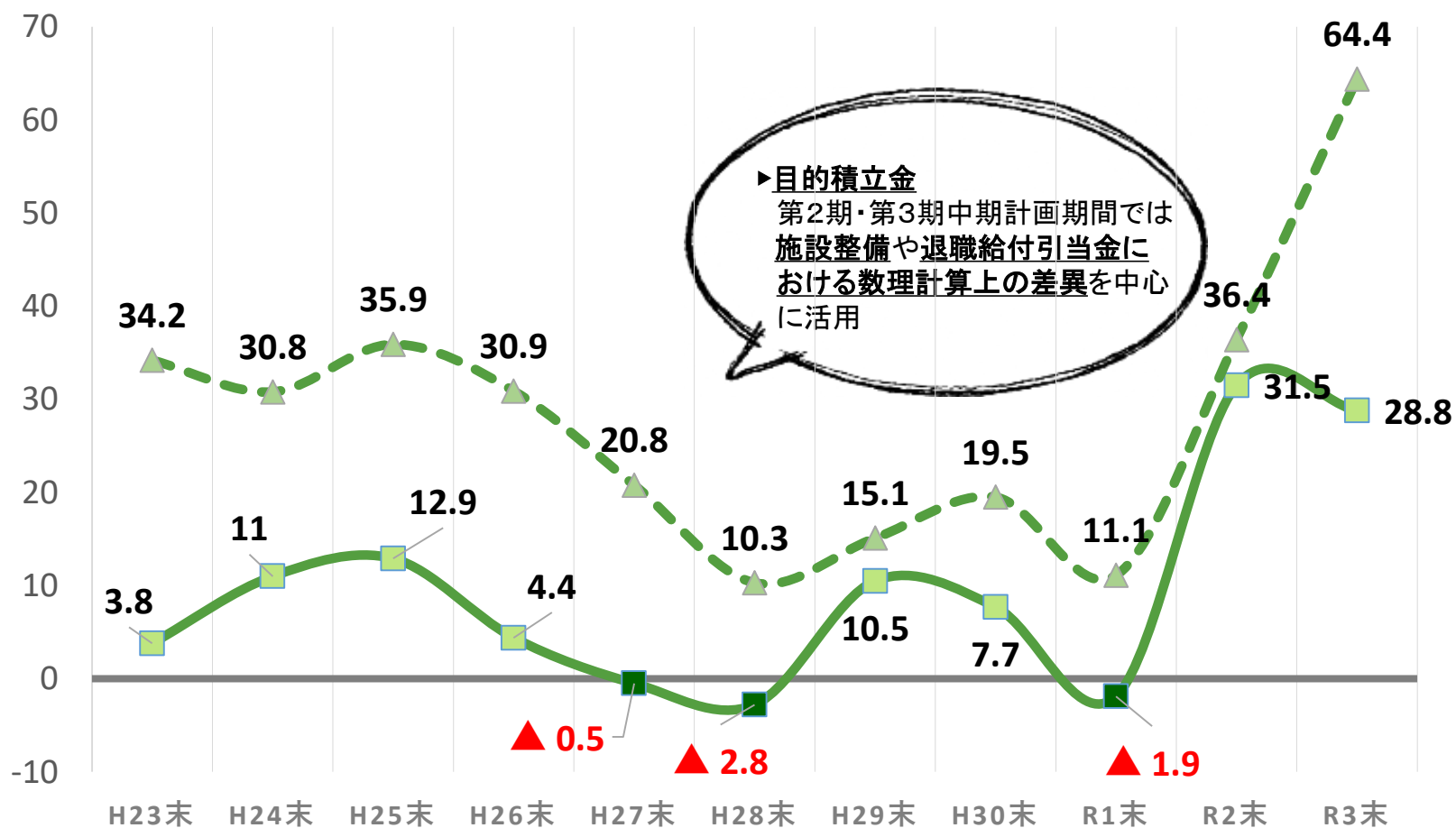
■ 主な増減要因(単位:百万円)

- 【附属病院収益 +1,447】
- 入院(+591)…入院単価の増(+7.1%)、入院患者数の減(▲3.6%)
- 外来(+908)…外来単価の増(+4.3%)、外来患者の増(+4.2%)
- 【補助金 +236】…コロナ関連補助金(+234)

3 当期総利益と目的積立金の推移

単位：億円

■ 当期総利益 ▲ 目的積立金残高



4-1 大学部門における COVID-19への主な対応



- 職域接種(1回目・2回目)の実施
⇒附属2病院の協力を得て実施し、約4,200名が接種
学生・教職員はもとより、近隣住民や他大学の希望者を
受け入れ、地域社会に貢献
- コロナ禍における授業展開
対面とオンライン(大人数講義)を並行して実施
⇒感染対策を徹底しながら学修の質を担保
- 国際体験機会の創出
⇒オンラインプログラムの実施(約500名が参加)
秋以降、25名が海外留学を実現
- 学生への継続的な「食の支援」
⇒生活が厳しい一人暮らしの学生などを対象に食料品や
日用品を支給(全6回、延べ約900人を支援)
- 大きな成果を上げたCOVID-19研究
⇒抗体保有率の調査研究でワクチン接種の有用性を示し
全国区のメディアに取り上げられるなど広く注目
- 2年遅れの「入学式」開催 (R4年4月4日開催)
⇒入学式が中止となった新3年生に改めて門出を祝福



4-2 附属2病院による COVID-19への主な対応

○神奈川モデル高度医療機関としての患者の受入れ等

- ⇒【附】・人工呼吸器装着の重症例、小児、周産期、透析患者の受入れ
- ・県からの委託を受け小児、周産期、透析患者の入院先コーディネート調整を実施
- 【セ】・体外式膜型人工肺(ECMO)の装着を必要とする重症患者、及び小児、周産期、精神疾患患者
- ・第5波ピーク時には過去最大の48床を確保



○地域の救急医療体制の協力・連携

＜「横浜市コロナ専門病院」への貢献＞

- 【附・セ】「横浜市コロナ専門病院」の立ち上げに尽力し、12月から医師、看護師、薬剤師及び放射線技師を派遣し、コロナの早期治療に貢献。
- 【附】オミクロン株の流行により入院患者が増加傾向にあった2月下旬から3月中旬まで新たに1病棟を閉鎖し派遣を行った。

4-2 附属2病院による COVID-19への主な対応

○地域の救急医療体制の協力・連携

＜ワクチン接種への派遣＞

【附・セ】横浜市が実施する大規模ワクチン接種への医師、看護師、薬剤師の派遣

【附】院外の地域医療従事者向けワクチン接種に対し、会場提供並びに医師、看護師、薬剤師及び事務職員が従事、他の大学等の職域接種に医師、看護師及び薬剤師の派遣

【セ】横浜市実施の深夜・早朝ワクチン接種の会場提供、医師、看護師、薬剤師の派遣

＜その他＞

【附】新型コロナウイルス感染症の専門家チームを構成し、感染対策の助言、CT検診車の派遣など高齢者施設等におけるクラスターに対し包括的支援。また、横浜市から委託を受け自宅療養患者のために横浜市内で初のCT検診車による巡回診療を実施



【セ】DMAT※¹隊員が、横浜市「感染症・医療調整本部（Y-CERT）」で中心的役割を發揮、「エクモカー※²」を活した他院との治療連携

※¹ 災害派遣医療チーム ※² 大型の救急搬送車。ECMOを使用しながら長時間の搬送にも対応できる仕様となっている。

4-2 附属2病院による COVID-19への主な対応

○【附・セ】医療従事者へのフォロー

⇒コロナ手当の支給

- ①新型コロナウイルス対応に従事した教職員に対する特殊勤務手当を支給
支給額 一人当たり5万円 :委託業者等は対象外
2病院計 約3,700人(附属病院 約1,800人、センター病院 約1,900人)
- ②コロナウイルス感染症対応に従事した教職員に対する手当を支給
支給額 一人当たり3~4千円/日
2病院計延人数約 65,700人(附属病院 約28,100人、
センター病院 約37,600人)
- ③「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」に基づく、看護職員医療従事者に対する手当を支給
支給額 一人当たり3,500円/月
2病院計人数 約1,600人(附属病院 約700人、センター病院 約900人)

○働きやすい環境の整備

【附・セ】新型コロナウイルスによる院外の保育園休園に伴い出勤が困難になった職員の園児を院内保育所で積極的に受入

【セ】横浜市立脳卒中・神経脊椎センターとの院内保育所緊急時相互受入れの協定締結

4-3 TOPICS (法人全体)



《法人の将来の発展に向けた事業の推進》

○SDGs推進

- ・大学4キャンパスの女子トイレで生理用品の無償提供を開始
- ・グリーンボンドへの投資により気候変動適応の取組に貢献
- ・学生の取組(サステナブル・シーフードメニューの開発、マグロの端材等を利用したSDGs弁当のプロデュース)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



○大学創立100周年事業

⇒100周年に向けたロードマップの作成と各記念事業プロジェクトの推進
百年史制作における資料収集の着手

※「横浜仮病院150周年」記念イベントはコロナ禍により延期(R4年10月1日(土))



○寄附活動・基金制度による自己収入拡充 大型寄附

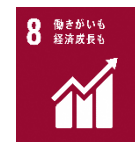
⇒法人幹部とファンドレイザーによる寄附渉外活動により高額寄附2件が
結実するなど、目標額を達成

寄附額：約153百万円
(目標額100百万円)

○医学部・病院等再整備事業

⇒基本計画の検討にあたり、「全体方針(ビジョン)」を作成
領域検討委員会を設置し、「再整備基本計画」の策定に向けた検討着手

4-4 TOPICS (大学)



【文科省・JST※採択事業の実施】 ※ 国立研究開発法人科学技術振興機構

○デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン (R2年度採択)
⇒LMS (Learning Management System) の導入 (R4年4月) により
「学修者本位の教育」の高度化と「全学のDX推進」を実現



○科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業 (R2年度採択)
⇒博士後期課程学生の生活支援及びキャリアパス支援を開始

○社会還元加速プログラム (SCORE) 大学推進型 (拠点都市環境整備型)
「横浜プラットフォーム」(主幹機関:(一社)横浜みなとみらい21 共同機関:神奈川大・
関東学院大・横浜国大・本学)
⇒大学発ベンチャーの創業支援

【THE世界大学ランキング2022】

○国内で7位タイ、公立大学では1位 (全体401位-500位)
⇒質の高い優れた研究を発信



【データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻】

○令和5年4月の博士後期課程設置に向けた準備
⇒文科省から届出による申請が認められる



4-5 TOPICS (附属病院)

○臨床研究中核病院の本申請

⇒令和4年2月に厚生労働省へ本申請を実施

今後書面審査と実地審査を受け、厚生労働省で承認されれば公立大学としては初の臨床研究中核病院として認定

○一部病棟の個室化

⇒患者からの個室利用の要望をうけ、一部病棟を改修し14室の新たな個室、うち4室は放射線治療に対応が可能な個室として整備



○CAR-T細胞療法(キムリア)

⇒「CAR-T 細胞療法(キムリア)」の提供可能施設として、神奈川県内の病院で初めて認定。最先端の医療を提供

○Cirqロボットアームシステムの導入

⇒手術支援ロボットアーム(Cirq ロボットアームシステム)を脳神経外科領域では日本国内で初めて導入。精度の高い手技による高度で安全な治療の実現



4-6 TOPICS (センター病院)

○ER部門の新設

⇒2次救急を中心とする救急外来の一元化を進め、
救急患者のトリアージを効率的に実施

○手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)2台の稼働

⇒R3.5月より稼働を開始し高度低侵襲がん治療機能の
充実や手術待ち時間の短縮



<手術支援ロボット (ダ・ヴィンチ) >

○東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への対応

⇒競技大会の横浜会場に医師・看護師の派遣、
大会指定病院の一つとして大会関係者の受入れ



<東京 2020 大会 ミーティングの様子>

○患者の利便性向上、初診紹介患者の増加の推進

⇒WEBによる初診予約(紹介予約)開始

5-1 【参考】貸借対照表 (法人全体:資産)

<資産の部>

(単位:百万円)

		令和3年度	令和2年度	対前年度	
資産の部	固定資産	有形固定資産			
		土地	19,047	19,047	-
		建物・構築物	10,471	10,723	▲252
		工具器具備品(医療機器含)	10,845	10,843	2
		図書	1,226	1,194	32
		その他	76	79	▲3
		有形固定資産合計	41,666	41,889	▲223
		無形固定資産合計	111	123	▲12
		投資その他の資産			
		投資有価証券	274	133	141
	長期貸付金	114	111	3	
	長期前払費用等	23	24	▲1	
	預託金・敷金保証金	11	11	-	
	投資その他の資産合計	423	281	142	
	固定資産合計①	42,200	42,294	▲94	
	流動資産				
	現金及び預金	14,430	14,018	412	
未収学生納付金収入	1	1	-		
未収附属病院収入	10,693	11,172	▲479		
その他未収入金	4,810	2,852	1,958		
有価証券	-	-	-		
医薬品及び診療材料	1,194	1,060	134		
前渡金	97	88	9		
その他	159	151	8		
流動資産合計②	31,388	29,346	2,042		
資産合計(①+②)	73,588	71,641	1,947		

病棟個室化改修工事【附】等により対前年度比2.5億円の減

対前年度比4.8億円の減

補助金等の未収入金の増により対前年度比19.6億円の増

5-1 【参考】貸借対照表 (法人全体:負債・純資産)

<負債・純資産の部>

(単位:百万円)

		令和3年度	令和2年度	対前年度		
負債の部	固定負債	資産見返負債	14,026	13,330	696	当期取得資産の増により 対前年度比約7.0億円の増
		長期借入金	3,000	2,920	80	
		退職給付引当金	8,748	8,075	673	退職給付費用の増に伴う 引当金の増等により 対前年度比6.7億円の増
		長期リース債務	1,052	1,673	▲621	
		その他	117	206	▲89	
		固定負債合計	26,944	26,207	737	
	流動負債	運営費交付金債務	79	-	79	当期受入額の増等により 対前年度比1.5億円の増
		寄附金債務	1,275	1,253	22	
		前受受託研究費等	1,443	1,291	152	
		一年以内返済予定長期借入金	1,420	1,320	100	対前年度比16.8億円の減
		未払金	9,434	11,117	▲1,683	
		短期リース債務	850	906	▲56	
		その他	984	944	40	
		流動負債合計	15,487	16,836	▲1,349	
負債合計③	42,432	43,043	▲611			
純資産の部	資本金	19,047	19,047	-	対前年度比30.6億円の増	
	資本剰余金	5,605	5,872	▲267		
	利益剰余金	3,557	497	3,060		
	当期未処分利益	2,878	3,151	▲273		
	利益剰余金合計	6,435	3,649	2,786		
	その他有価証券評価差額金	69	28	41		
純資産合計④	31,156	28,597	2,559			
負債純資産合計(③+④)	73,588	71,641	1,947			